

二〇九八番

奥山おくやまに住すむといふ鹿しかの
夕よひ去さらず 妻つま問とふ萩はぎ
の 散ちらまく惜をしも

二〇九九番

白露しらつゆの 置おかまく惜をしみ 秋萩あきはぎを
折をりのみ折をり
て 置おきや枯からさむ

二一〇〇番

秋田あきた刈かる 仮廬かりほの宿やどり にほふまで 咲さける秋萩あきはぎ
見みれど飽あかぬかも

二一〇一番

我が衣あころも 摺すれるにはあらず 高松たかまつの 野辺のへ行き
しかば 萩はぎの摺すれるそ